

BILLY JOEL
FROM
NEW YORK



BILLY JOEL

GREATEST HITS

VOLUME I & VOLUME II

RECORD I

SIDE A

- ピアノ・マン** PIANO MAN

“ピアノ・マン/PIANO MAN 1973年”
- さよならハリウッド** SAY GOODBYE TO HOLLYWOOD

“ソングズ・イン・ジ・アティック/SONGS IN THE ATTIC 1981年”
- ニューヨークの想い** NEW YORK STATE OF MIND

“ニューヨーク物語/TURNSTILES 1976年”
- ストレンジャー** THE STRANGER

“ストレンジャー/THE STRANGER 1977年”
- 素顔のままで** JUST THE WAY YOU ARE

“ストレンジャー/THE STRANGER 1977年”

SIDE B

- ムーヴイン・アウト** MOVIN' OUT (ANTHONY'S SONG)

“ストレンジャー/THE STRANGER 1977年”
- 若死にするのは善人だけ** ONLY THE GOOD DIE YOUNG

“ストレンジャー/THE STRANGER 1977年”
- シーズ・オールウェイズ・ア・ウーマン** SHE'S ALWAYS A WOMAN

“ストレンジャー/THE STRANGER 1977年”
- マイライフ** MY LIFE

“ニューヨーク52番街/52ND STREET 1978年”
- ビッグ・ショット** BIG SHOT

“ニューヨーク52番街/52ND STREET 1978年”
- オネステイ** HONESTY

“ニューヨーク52番街/52ND STREET 1978年”

RECORD II

SIDE A

- ガラスのニューヨーク** YOU MAY BE RIGHT

“グラス・ハウス/GLASS HOUSES 1980年”
- ロックン・ロールが最高さ** IT'S STILL ROCK AND ROLL TO ME

“グラス・ハウス/GLASS HOUSES 1980年”
- プレッシャー** PRESSURE

“ナイロン・カーテン/THE NYLON CURTAIN 1982年”
- アレントاون** ALLENTOWN

“ナイロン・カーテン/THE NYLON CURTAIN 1982年”
- グッドナイト・サイゴン~英雄達の鎮魂歌** GOODNIGHT SAIGON

“ナイロン・カーテン/THE NYLON CURTAIN 1982年”

SIDE B

- あの娘にアタック** TELL HER ABOUT IT

“イノセント・マン/AN INNOCENT MAN 1983年”
- アップタウン・ガール** UPTOWN GIRL

“イノセント・マン/AN INNOCENT MAN 1983年”
- ロンゲスト・タイム** THE LONGEST TIME

“イノセント・マン/AN INNOCENT MAN 1983年”
- オンリー・ヒューマン** YOU'RE ONLY HUMAN (SECOND WIND)

新曲
- ナイト・イズ・スティル・ヤング** THE NIGHT IS STILL YOUNG

新曲

プロデューサー:フィル・ラモーン
*下記2曲を除く
「ピアノ・マン」:マイケル・スチュアート/「ニューヨークの想い」:ビリー・ジョエル

アルバム・プロデューズ:フィル・ラモーン

エンジニア:ジム・ポイヤー

アシスタント・エンジニア:ピーター・ヘフター

マスタリング:テッド・ジェンセン

作詩&作曲:ビリー・ジョエル

RECORD I

SIDE A

1.**ピアノ・マン**

CBS移籍第1作(通算2作目)「ピアノ・マン」(73)。この曲は西海岸でビル・マーティンの芸名で出演していた頃のピアノ・バーの思い出が、鮮かな人物像と共に描かれている。以降、彼にはピアノ・マンのイメージがついて廻る。ビルボード誌Hot 100に初登場して最高25位(74年4月)。キャッシュ・ボックス誌の74年度最優秀新人男性歌手賞を獲得。LPもゴールド・レコードとなった。

2.さよならハリウッド

ビリーはジェリー・ガルシオのプロデューズで、通算4作目のソロ・LPの録音を始めたが決裂。N.Y.に帰って自分のプロデューズで「ニューヨーク物語」(76)を完成した。その中の代表曲だが、ここでは初期の佳曲を再録音したライブ盤「ソングズ・イン・ジ・アティック」(81)からのヒット盤、ウイスコンシン州ミルウォーキー・アリーナ(80年6月)の録音が収められている。最高17位(81.11)

3.ニューヨークの想い

これも「ニューヨーク物語」中の佳曲。矢もたてもたまず、西海岸の生活を打ち切って帰ってきたビリーの望郷の念は、ニューヨークへの熱い想いとなって、ここに歌われている。「素顔のままで」に次いで多くの歌手たちが、この曲を取りあげている。ビリーはこのアルバムで初めて自分の仲間と呼べる人たちが録音ができたのを、大いに喜んでいる。シングル・カットされなかった。

4.ストレンジャー

ビリーの才能はすでに高い評価を受けていたが、評価を人気に結びつけたのはLP「ストレンジャー」だった。念願のフィル・ラモーンをプロデューサーにして、ここからは4曲の大ヒットが生まれた。イントロの美しいピアノに続く口笛。これもフィルの意見で加えられたという。大都会の哀愁が心にしみ渡る名曲だ。アメリカではシングル・カットされなかったが、日本ではこの曲で人気爆発。

5.素顔のままで

ビリーにとっては記念すべき初のグラミー受賞曲だ。78年度の大賞にあたる最優秀レコード賞、最優秀歌曲賞を受賞した。その今日的でやさしいロマンティズムは、現代版「マイ・ファニー・ヴァレンタイン」としてもよく、彼の作品中、もっとも多くの人々が愛唱歌やレパートリーに加えている。シングル第2弾として出され、全米No3(78年2月)となった。

SIDE B

1.**ムーヴイン・アウト**

「ストレンジャー」の冒頭に入っていたこの曲をきいて、あっ、ニューヨークだ、と思った人も多いに違いない。彼はこの大都会に生きる庶民を、

リアルに歌いあげた作品が少ないが、その生活と心情を、たくましい躍動感とともに、実に見事に描きだしている。シングル第1弾として出された時は不発。その後「素顔のままで」の後で再度カットしなおし、17位(78年5月)までいった。

2.若死にするのは善人だけ

カトリック修道院のシスターたちがテーマに選ばれているが、妙な罪の意識で聖人ぶってカラに閉じこもり、人生を無駄に過している人へ、短い青春をもっと謳歌するようにと、ビリーは呼びかけている。リバティ・デヴィト(d)、ダグ・ステイグメイヤー(b)、リッチー・キヤナタ(sax、key)を中心としたジョエル・バンドは、ゴスペル・ロック調で力強い手応えがある。全米No24(78年7月)。

3.シーズ・オールウェイズ・ア・ウーマン

「素顔のままで」はじめ、ビリーのラヴ・ソングはいつも人間的なやさしい目で相手を見つめている。その大半は、彼のキャリアを支えてきた前夫人エリザベスへの愛の歌でもある。ちなみに、ビリーの好きな女性像は、自己を確立している女性。その典型がこの歌の主人公といつてもいい。割に地味な曲だが、最高17位(78年10月)のヒットとなったのは、やはり曲のよさだろう。

4.マイ・ライフ

LP「ニューヨーク52番街」で、79年度グラミー賞最優秀アルバム賞、最優秀男性歌手賞を受賞した。52番街はA&Rスタジオのある所。ジャケット写真もスタジオを出たすぐの所だ。彼はニューヨーカーについて、タフでなければ生きていけないが、心は暖かいんだよ、といていた。この曲は「ムーヴイン・アウト」に通じる内容だが、N.Y.に生きる男の気概がはっきりと伝わってくる。第3位。(79年1月)

5.ビッグ・ショット

前作でグラミーを受賞して人気スターになったことは、作風にも反映している。依然、庶民でありながらも、それ以上の存在になりだしたことを自覚し始めたのだ。ここでも大物づらして、やりすぎてしまった人間をこき下ろしながら、自分に警告を発しているようなところがあり、ジョエル夫妻のある朝の光景も目に浮かんできて面白い。コンサートでもコミカルな演技が光る。第14位。(79年3月)

6.**オネステイ**

「52番街」の中で、もっとも美しい佳曲。「素顔のままで」と並ぶビリーの代表的なバラードだ。ここでも人気スターというものを自ら経験した人ならではの感慨がこめられている。“誠実とはなんて淋しい言葉なんだ”という一行は、特に胸にしみ渡る。だが、哀愁はあっても、そこに感傷がないのも見事。彼のソング・ライティングの深さがうかがえる。シングル第3弾で24位。(79年5月)

RECORD II

SIDE A

1.**ガラスのニューヨーク**

ガラスの家に向って、皮ジャンにGパン姿のビリーが石を投げようとしている表紙の「グラス・ハウス」(80)は、「ストレンジヤー」からファンになった人にとっては驚きだったようだ。ガラスを砕く音と共に、快調のロックン・ロール集は始まる。彼は自身のポップ・スター像を、自らの手で打ち砕き、ロックン・ローラーにたちもどったのだ。真剣さとユーモアが同居する。第7位(80年5月)

2.ロックン・ロールが最高さ

80年度グラミー賞も手にしたビリーは、最優秀ロック男性歌手賞、フィル・ラモーンも最優秀プロデューサー賞に輝いた。ニュー・ウェイヴの大攻勢の中で、ビリーはきわめて人間くさいロックン・ローラーの姿勢を示した。それが端的に現れているのがこの曲。ゲストも入れず、ビリー・バンドだけのシンプルで力強いロックは、ライブ感覚にあふれてNo1ヒット(80年7月)となった。

3.プレッシャー

念願のライブ盤について、ビリーは重厚な「ナイロン・カーテン」(82)を発表した。彼は10代向きのヘヴィ・メタルや、大人の歌はあっても、25～40才位の同世代の人のための音楽は不在だとして、このLPを作った。ここには多くの困難をくぐりぬけてきた人の感慨や思い出が、現実直視の形で歌われている。これは各種プレッシャーを、傷あとを作りながらくぐり抜けてきた男の歌だ。第20位(82年11月)。

4.アレントاون

メロディーとタイトルは、約10年前に書き始めたものだという。US製鋼所関係の工場で、戦後間もなく急成長を上げた東部のブーム・タウンは、今深刻な不況にあえいているが、そうした地方都市の盛衰と、そこに生きるブルー・カラーの親子二代をリアルに描きだすビリーの姿勢には、ねばり強いものがあり、決して夢を捨ててはいない。シングル第2弾として出され、第17位(83年2月)。

5.**グッドナイト・サイゴン~英雄達の鎮魂歌**

ヘリコプターやマシンガン、虫の声などを配した大作は、タブー視されていたヴェトナム症候群を、真正面から見すえている。彼は3年前から取りかかり、戦争に狩り出された兵士の立場で書き上げた。ヘヴィーで硬派な作品をいっぱい抱えた「ナイロン・カーテン」は、82年度グラミー賞アルバム賞候補にあがったが、票が割れ受賞は逸した。シングル盤が56位(83年4月)となったのは立派。

SIDE B

1.**あの娘にアタック**

アメリカの過去から現在に至る諸問題を、社会派的な立場でとらえた前作で、ビリーは心のわだかまりを全部はき出したのだろう。「イノセン

ビリー・ジョエル物語

BILLY JOEL STORY

ト・マン」(83)は、キャッチーで明るいセッ曲が
いっぱい。しかも、彼が青春時代に接した様々
な音楽を下敷きに曲作りを行っている。この曲
はシュープリームスやマーサ&ザ・ヴァンデラ
スの曲がヒント。'83年9月に、あっさり全米No.1
をものにした。

2. アップタウン・ガール

山の手の子と下町の男の子。世界の
違う者同志の恋の歌。それをフランキー・ヴァリ
とフォー・シーズンズばりに歌っている。このアル
バムにとりかかった時、彼は正式にエリザベスと
別れて精神的に解放され、又、N.Y.のトップ・
モデル、クリスティ・プリנקリーとの恋も進行中。
いつもは苦しんで書く作品が、あっという間に出来
上っていった。第3位の大ヒット('83年11月)。

3. ロングスト・タイム

珍しいア・カペラ曲だ。その全部のパートを、
いろいろ声や表情を変えて、ビリー自身が歌って
いる。ザ・パースウェイジョンズはじめア・カペラ
グループと共演してみたが、うまくいかず、フィル・
ラモーンの発案でこうなったという。曲の下敷き
は、ザ・タイムス。思いがけず芽生えた恋が、どう
なっていくかわからないままに、酔いしれる彼の姿
が投影されている。全米No.14('84年5月)。

4. オンリー・ヒューマン

ビリーは2年近くも新作を出していないが、そ
の間「イノセント・マン」からのヒットが絶えず、都合
6曲が大ヒット。この曲はそれに続いてのニュー・
シングル。期待を上廻る佳曲に仕上がっている。
人生にはセカンド・チャンスがあるものだ、経
験を通して後輩に語りかけているところがほほえ
ましい。本人も当初は予想していなかったが、クリ
スティと'85年3月23日に、結婚式をあげた。

5. ナイト・イズ・スティル・ヤング

楽天的な「オンリー・ヒューマン」とは対照的
な新曲が、最後をしめくっている。重厚でやや
難解だが、人生の転機を迎え、又、自分の音楽
を集大成しての感慨であるといえる。彼の中に同
居する若者と分別ある大人。2人のビリーのミュ
ージカル風モノローグによって、心情が吐露さ
れる。歌詞に記されていない部分に、願いの言葉
がきかれるが、ビリーがいつまでも幸せでいて
ほしいと思う。

1949年5月9日ハワード&ロザリンド・ジョエル
夫婦の長男として、ニューヨークはブロンクスに
生まれる。本名WILLIAM JOSEPH MA-
RTIN JOEL。まもなく家族と共にロング・アイラ
ンドに移住。モーツァルトの作品に大きな関心
を示し、両親のすすめもあり3才からクラシック・
ピアノのレッスンを受ける。エルヴィス・プレスリー
を知り、フィル・スペクターの一連のサウンド
に刺激を受けロックン・ロールへ目覚め始める。
当時彼のお気に入りにはエルヴィス、レイ・チャー
ルズ、ジェームズ・ブラウン、オーティス・レディング、
ロネッツ、サム&ダイヴ等であった。ビートルズ
の出現にショックを受け、自らもロック・アーティ
ストになることを決意。ロング・アイランドのクラブ
でピアニストとしてスタート、その傍らロック・グル
ープを結成し、プロとしてのデビューは1968年
THE HASSLES (United Artistsレーベル)であ
った。翌年、セカンド・アルバムHOUR OF THE
WOLF発表後解散。ハッスルズのメンバー、
ジョン・スモールと二人でデュエット・チーム、
アッチラを結成。当時流行のサイケデリック・サ
ウンドを基調にアルバムATTILA (EPICレーベル)
を1970年に発表。全く売れず、失意のうちにロック
評論家として生計を立てるものの、ロック・スタ
ーへの夢は捨て難く、ソロとしてファミリー・プロ
ダクションとの契約にこぎつける。1972年事実
上のソロ・デビュー・アルバムCOLD SPRING
HARBORは発表された。(当時、日本でも発
売されたが売れずに廃盤。1983年12月、12年
振りに再発された。) 同時にバック・バンドを
率いてプロモーション・ツアーを開始したのも東
の間、契約上のトラブルであえなく中止。精神、



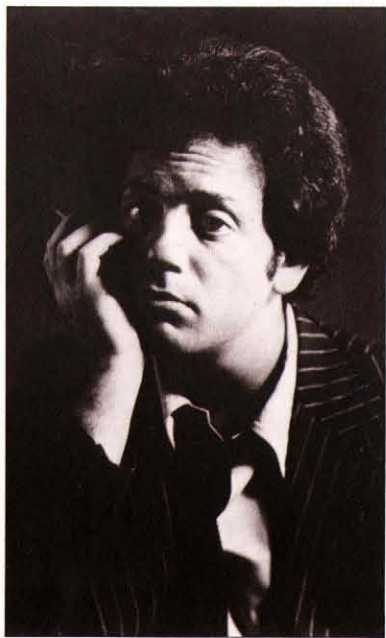
的チャージの為、カリフォルニアへ向かい、ノー
ス・ハリウッドに居を構える。ビリー・マーティンな
る芸名でL.A.にあるエグゼクティヴ・カクテル
・ラウンジ専属シンガーとなり、ピアノの弾き語り
を行う。その後、マリブ山中の一軒家へこもり、
真剣に曲作りに取り組む。そしてCBSと待望の契
約を交し、1973年PIANO MANを発表。(日本
発売は1975年だが、ビルボード誌に於て最高
27位まで上る。セールスも50万枚を越えゴールド・
ディスクを獲得)この大ヒットにより成功への
足掛かりをつかみ、前作と同じプロデューサー、
マイケル・スチュワートを起用し3枚目のソロST-

ストリートライフ・セレナーデ
REELIFE SERENADEを発表。「ピアノ・マン」
同様、ノース・ハリウッドのデヴオンジャー・サ
ウンドで録音される。この後、ニューヨークへ
舞い戻り、ハイランドフォールズに落ち着く。そ
して1976年TURNSTILESはニューヨークで録
音され、LA時代の気持ちを綴った“ニューヨ
ークの想い”や“さよならハリウッド”そして“夏、
ハイランドフォールズにて”の名曲を収録して
いる。この頃、ビリー・ジョエル・バンドもかたまり
はじめ、全108回公演の全米ツアーも敢行して
いる。1977年、プロデューサーに念願のフィル
・ラモーンを迎え、THE STRANGER発表。翌
年、グラミー賞に於て最優秀歌曲賞を受賞し
たシングル“素顔のままで”は全米ヒット・チャ





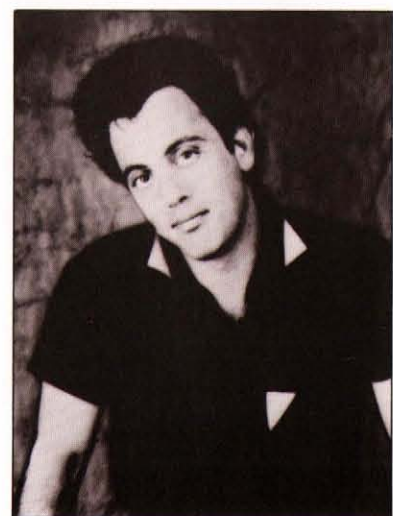
一ト3位となる大ヒット。1978年4月初来日を果たす(23日・東京、24日・大阪)日本のみのシングル“ストレンジャー”も爆発的に大ヒットし、御当地マジソン・スクエア・ガーデン3回を含む全米ツアーも大成功。一躍、スーパー・スターの仲間入りを果たした。1978年10月52nd STREETニューヨーク52番街も続けて大ヒット。“ストレンジャー”はアルバム・チャート2位であったが、今回は遂にナンバー・ワンを獲得。1979年5月、2度目の来日を果たす。22回グラミー賞に於て最優秀アルバム賞を獲得し、最優秀男性ポップ・シンガーにも選ばれる。1980年GLASS HOUSESは発表され、ビリーの衝撃的ロックン・ロールは爆発した。もちろんアルバムはナンバー・ワンとなり、シングル・ヒットも連発。“ロックン・ロールが最高さ”は初めてのシングルNo.1となり、初めての中近東を含む、大規模なワールド・ツアーを敢行。圧巻はもちろんニューヨーク、マジソン・スクエア・ガーデン5回公演であった。10万枚チケットを即日



完売というから、その人気の凄まじさが理解できる。そして三たびグラミー賞受賞。最優秀ロック男性歌手賞に選ばれ、同時にフィル・ラモーンも最優秀プロデューサーに選出されている。CBSレコードからは、アメリカ以外の地域でトータル500万枚以上のアルバム・セールスを達成した事を記念して、クリスタル・グローブ賞が贈られている。1981年4月、3度目の来日公演。1981年、過去の作品群にエネルギーを与え、甦らせたライブ・アルバムSONGS IN THE ATTICアティックを発売。その後、チャリティ・レコード“イン・ハーモニー2”に未発表作品を提供する。これは人気TV番組“セサミ・ストリート”への資金援助のため制作されたもので81年11月に発表された。1982年4月15日、オートバイ事故を起こし、右親指と左手首を骨折、世界中のファン



を心配させた。そして9月入院中にアイデアをあたためていたという衝撃の話題作THE NYLON CURTAINカーテンは発表された。悩めるアメリカが内包する諸問題にスポットをあてた、ハード&シリアスなサウンドはビリーの新しい面を聴かせてくれ、時代の傑作と呼ばれるものとなった。1983年1月、ニューヨークのセントラル・パークに面したサンモリッツ・ホテルの最上階を長期レンタル、新作の創作に入る。8月AN INNOCENT MANイノセントマンはリリースされ、ファースト・シングル“あの娘にアタック”の全米ナンバー・ワン・ヒットを皮切りに、連続6枚のシングル・ヒットを放ち、長期ベスト・セラーとなる。アメリカン・ポップスの素晴らしさをフル・ナップした、ジューク・ボックス的なアルバムであり、ビリー自身のルーツを教えてくれる。全ての曲にキラリと光るポップ・エッセンス





レキシントン・アヴェニューにて

ピアノ・マン

訳詞：山本安見

土曜の夜9時

いつもの奴等がそろそろ集まってくる頃だ
一人の老人が僕の隣りで
ジン・トニックのグラスをしきりと愛撫している

“若い、思い出というヤツを弾いておくれ
どんな曲だったか もう覚えちゃいないが
ちょっぴり甘くて ほろ苦い味のするヤツさ
これでも若くて 洒落っ気があった頃にや
空ですっかり覚えていたものだ”
ラ、ラ、ラ……

“歌っておくれよ ピアノ・マン
今宵 歌っておくれ あの歌を
俺たち全員 歌い出したい気分なのさ
ああ 今宵はなんて素敵な夜だろう”

カウンターにいるのは 僕の友だちジョン
いつも僕にただで酒をおごってくれる
絶えず明るい冗談をとぼしては
細かい所まで気を配る とびきりいいヤツさ
だけど 彼の夢は広い世界を知ることなんだ

“ねえ ビル もうウンザリだよ”
真面目な顔つきで 彼は打ち明ける
“俺は映画スターになるんだ 自信はあるさ
いつかきっと ここから抜け出してやるぜ”
ラ、ラ、ラ……

ポールはじつに立派な小説家だ
結婚する暇もないほど 執筆に精を出してる
彼の話し相手は海軍に入ってるデイヴィ
恐らく彼は一生を海軍に捧げるのだろう

政治学を勉強しているウエイトレスと
かなり酔いのまわったビジネスマン
片隅で “孤独” という名の酒を飲み交わす
それでも 一人で飲むよりはずっとマシだよ

土曜日とはいえ 賑やかな店内を見渡して
マネージャーが僕に微笑みかける
彼は知っているのさ 客はみんな
明日のことをはんの一瞬忘れるために
この僕に会いにきてるってことを……

ピアノはまるでカーニバルのような音を出し
ビールの匂いがマイクにまで浸み渡る
彼らはカウンターから僕にこう声をかける
“ところで きみ ここで一体何してるんだい?”
ラ、ラ、ラ……

さよならハリウッド

訳詞：平田良子

今宵ボビーは街を走りぬける
灯のなかを
かっこいい新車のレンタカーで
いろんなカップルと並んでつっぱしる
サンセット・ブルヴァードじゃよくある光景さ

お別れだぜ ハリウッド
さよならさ おまえとも
グッバイ ハリウッド
グッバイ マイ・ベイビー
しばらくはジョニーが
めんどうみてくれた
彼のやり方は流れ者の歌手にやびったりだ
仕事をとりしきる腕も立つ
だが彼はもうおれのお守はやらないさ

街を出るのはいつだって
またうまくやろうとするチャンスなんだ
ひと言ましがえりゃ
友だちだったやつも引っちまう
ずっと……永久にな

だからいろんなやつが
おれのそばに来てはまた去っていく
ずっと続くのもいれば
すぐに行っちまうやつもいる
人生はこんちわとさよならの連続さ
また別れの時が来てしまったよ

ニューヨークの想い

訳詞：平田良子

休暇には大都会を離れて
どこかへ行きたいという人が多い
マイアミ・ビーチあるいはハリウッドへ
空の旅
ぼくはグレイハウンドで
ハドソン・リヴァーの境界線を渡る——
ニューヨークへの想いが溢れんばかりだ
派手な車やリズムに乗った
映画スターも沢山見たし
常緑樹の美しいロッキー山脈にも登った
でも自分か何を求めているかわかるんだ
これ以上時間をむだにしたくない
想うのはニューヨークのことばかり

リズム・アンド・ブルースとは
およそかけ離れた感じて
毎日とてもものんびりしていた
でももう、明暗さまざな
街の暮らしが恋しいんだ
ニューヨーク・タイムス、デイリー・ニュース……
現実の煩雑さそのままだ
でもそれがぼくにはいい
そういう感覚を忘れてしまっていたから
チャイナタウンでもリヴァーサイドでも
構わない
別にわけなど無いんだ
全部忘れてしまっていたから——
もうニューヨークのことばかり想っている

グレイハウンドで
ハドソン・リヴァーの境界線を渡る
ニューヨークへの想いでいっぱいだ

ストレンジャー

訳詞：山本安見

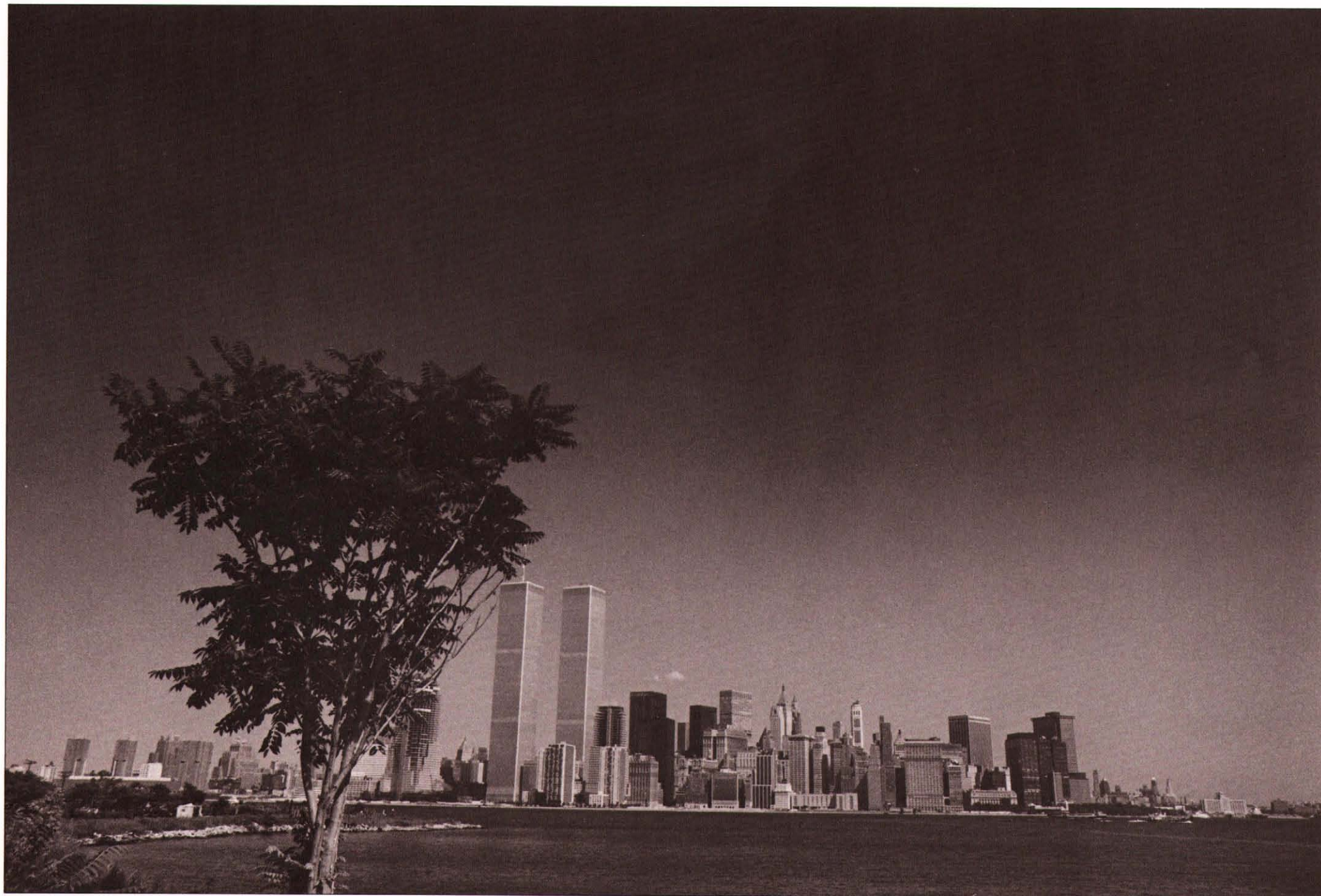
誰でも もうひとつの顔を持っている
人目から永遠に隠してしまおうとする顔を……
傍に誰もいない時
そっと取りだしては
ひとりて眺めるもうひとつの顔を……
サテンや鋼鉄
シルクや皮でできた顔
見たこともない顔だけど
僕らはみな それをつけたがる

僕らはみな恋に落ちる
危険さえかえりみずに……
秘密を分かちあってはいても
どうしてもいえない秘密もある
ストレンジャーなんて見たこともないと
驚いて目を丸くするきみ
きみの愛する人に見せたこともないのかい？
きみ自身のなかにいるストレンジャーを……

怖がらずに もう一度やってごらん
次から次へと
人々は南へ向かってる
きみでさえてきたんだ

他の人にもできない訳はない
もう分かってもいい頃だ
きみだって そこに行ったことがあるだろう？

ひどい空想家だった僕
ある日 家に帰ると
見たこともない女が待っていた
訳を教えてくれと頼んだけど
彼女はひと言も答えない
その時 僕はストレンジャーに
眼のあたりを殴られた気がしたのさ



ニュージャージーよりマンハッタンをのぞむ

素顔のままで

訳詞：山本安見

僕を喜ばせようと思って
イメージ・チェンジなんてしないでくれ
今までのきみで 僕は満足だよ
ありふれているから
飽きられてしまうなんて思っちゃダメだよ
どんな時だって きみを離しはしない
ここまで来た僕たちだもの
楽しい時を受け入れてきた僕さ
辛い時だって 心よく受け入れよう

最新流行の服なんて着ないでくれ
髪の色も変えちゃダメだよ
口には出していわないかも知れないけれど
いつも きみのこと想っているのさ
気のきいた会話なんていらないよ
疲れるだけだもの
気やすく話せる相手がほしいんだ
今のままの君が欲しいんだよ
きみがいつまでも
昔のままでいてくれたら それでいいのさ
僕がきみを信じてるのと同じように
僕のこと 信じてほしいんだ
愛してるよ ずっと永遠に……

心から きみに誓う
これ以上深くは愛せないくらいさ
今のままのきみが 僕は欲しいんだ

ムーヴン・アウト

訳詞：山本安見

雑貨屋で動くアンソニー
将来のために せつせと金を貯めている
ママ・レオーネがドアに残した走り書き
“息子よ 田舎へお帰り”
どんなに働きすぎたって
心臓麻痺なんかで死にやしないさ
もう分かってくれてもいいと思うな
ハッケンサククに家を持ってどうなるんだい？
大事な金をそんなものに使うつもりかい？

そんなの時間の無駄というものさ
もし それがすべてならね
それが出世だというなら 僕はゴメンだね

受け持区域を歩いていくオリアー軍曹
夜になると バーテンダーに早変わり
サリヴァン・ストリートの
医療センターの向かいにある
ミスター・カチアトルの店で働いているのさ
シェヴィ*をキャディラックに買い換えたくて
ウズウズしてる
もう分かってくれてもいいと思うな
もし 痛めた背中で運転が無理だとしても
フェンダーを磨くことぐらいできるさ

狂った奴とは
いくら議論したって無駄なこと
もう分かってくれてもいいと思うな
仕事を終えたら
アングル・サムごっこをやってもいいけど
働いて得るものは たったそれっぽっちなの？

〈訳はシェヴィとはシボレーの略〉

若死にするのは善人だけ

訳詞：山本安見

出ておいてよ ヴァージニア
僕を待たせないで
きみたちカソリックの娘たちはおくてだけど
遅かれ早かれ 運命の相手と出会うのさ
それは この僕かも知れないんだよ
ヤツらはマリア様の像を見せて
お祈りしなさいと教えこむ
そして 教会を建てては
きみたちを閉じこめてしまうのさ
だけど それと引き換えに
きみたちが払う代償については
何ひとつ教えようとしな
若死にするのは善人だけなのさ
僕が危険なヤツらとつきあってるって
そんな噂を聞いたかも知れないな
確かに 僕ら ご清潔でもないし
自尊心があるわけでもない
僕ら ちょっとばかり
大きな声で笑いすぎるかも知れないけれど
だからって 誰も傷つけるわけじゃない

さあ ヴァージニア サインをおくれよ
合同さえてくれれば綱を投げてあげる

あのスタンド・グラスの向こうに
きみは隠れたっきり
お陽さまの光さえ入れようとしななんだよ
若死にするのは善人だけなんだよ
堅信札には 真っ白のドレスを着て
パーティにのぞむきみ
清らかな魂と黄金の十字架が
いったい何になるんだい？
ヴァージニア ヤツらのいうことなんか
信用しちやいけないよ
きみ 僕のことは信用しないで
ロザリオだけを信じてるんだね
待ってれば いつか天国に召されるって
ヤツらはいうけど
僕にいわせれば
死んで天国へ行ったって何にもなりやしないさ
聖者と一緒に涙を流すよりも
僕は罪人と一緒に笑いたいね
罪人のほうがずっと愉快なもの……
若死にするのは善人だけなんだよ
きみのお袋さんにいわせると
僕は悪い評判しか与えられないそうだけど
彼女 ちっとも分かつちやいないのさ
僕にお祈りを捧げてくれたことさえ
ないじゃないか



タイムズ・スクエア近くのコーヒー・ショップにて

シーズ・オールウェイズ・ア・ウーマン

訳詞：山本安見

その微笑みて惱殺し
その腫で傷を負わせることもできる彼女
何気ない嘘で
信頼さえズタズタにしてしまう彼女
彼女は自分が見せたい部分しか
他人に見せようとし
子供みたいに秘密が好きなのさ
だけど 僕にとってはいつも魅力的な女
生きる希望を持たせてくれたかと思うと
気分だけで男をフッてしまう
真実の気持を聞きながらけれど
決して信じようとはしない
そして 無料であるかぎり
与えられたものは何でも受けとる
泥棒みたいに盗むのが好きなのさ
だけど 僕にとってはいつも魅力的な女

ああ——彼女は自分のことしか考えないのさ
その気になれば いつまでも待っている
時間なんて超越しているんだ
ああ——彼女は屈服することもなければ
力尽きることもないのさ

気まぐれな彼女
エデンの園よりもっとステキなものを
約束してくれたかと思うと
無意識に きみに傷を負せては
血が流れるのを見て楽しそうに笑う
彼女は きみのいい面も悪い面も
すべてさらしださせる
だけど すべてはこの僕のせいさ
僕にとって 彼女はいつも魅力的な女なのさ

気まぐれな彼女
時に優しくなったかと思うと
急に残酷になる
気のつくままに振舞う彼女
誰も彼女を馴すことはできない
だけど 彼女には
罪の意識など まるでないのさ
彼女のすることといたら
きみに影を投げかけることだけ
だけど 僕にとって
彼女はいつも魅力的な女なのさ

マイ・ライフ

訳詞：あらいあきら

古い友人から電話があった。
以前とても親しくしていた友だ。
アメリカ流に生きて行くことは出来ないから
店をたゝみ、家を売って、
西海岸への切符を買ったそうだ。
そして今ではL. A.で、
自分を押し通して生きている。

俺は大丈夫だから、心配などしないでくれ、
ふるさとへ帰る時期だなんて言わないでくれ、
もう君の言うことなんか気にしない、
これが俺の人生なんだ。
自分の人生を生きてくれ。
俺のことは放っておいてくれ。

第二の機会を与えてくれなんて
君に言った覚えはない。
俺は環境の犠牲者だなんて
言った覚えもない。
俺はこゝの人間なんだ。
誤解しないでくれ。
君は自分の思う通りを語るが、
でも俺の邪魔はしないでくれ。

たった一人で知らない場所に
眠れはしないと人は言う。
そして誰か他の人と
寝るわけにも行かないと言う。
でも遅かれ早かれ誰でも
自分の空間に寝るようになる。
それはどっちでも良い。
起きる時は自分自身で起きるのだから。

俺は大丈夫だから、心配などしないでくれ、
ふるさとへ帰る時期だなんて言わないでくれ、
もう君の言うことなんか気にしない
これが俺の人生なんだ。
自分の人生を生きてくれ、
俺のことは放っておいてくれ。



マンハッタン東岸よりクイーンズ地区をのぞむ

ビッグ・ショット

訳詞：あらいあきら

お前は運転手つきの車に乗り、
上等なパーク・アベニュー風の服を着て、
山の手へ出かけて行った。
手にはドン・ペリニョンのグラスを持ち、
乙にすまして出かけて行った。
そして朝眼をさますと、
頭は三日酔で火がついたよう、
眼は血走って何も見えない。
独りでコーヒーに向かって泣けばいいさ、
俺に泣き言を言いに来ないでくれ。

だって

お前は「大物」になりたかったのだから、
大きなことを言いたかったのだから、
大物で居なけりや気がすまなかったのさ。
お前の友達は皆お前に夢中になった、
昨夜お前は主役で居たかったんだ。
何のためか判っていたはずだ、
皆の注目を一身に集めたかったんだ、
昨夜お前は大物で居たかったんだ。

皆はお前のハルストン仕立のドレスに
すっかり感服してしまった。
エレインの所の人達を知っていることにも、

つい先日の大成功の話にも、
みんな夢中で耳を傾けた。
でも一夜明ければお前は何も覚えちゃいない
自分が何を話したのが、
別に思い出したくもないのさ。
一つだけヒントを上げようか。
あれはまさに名演技だったよ。

そうさ、お前は大物になりたかったんだ。
みんなに証明してみせたかったのさ。
大物で居なけりや気がすまなかったのさ、
お前の友達は皆お前に夢中になった、
昨夜お前は主役で居たかったんだ。
一緒に居るとすごく楽しいって、
お前は大文字で書いた
新聞の第一面みたいに目立ちたかったのさ。
昨夜お前は大物で居たかったんだ。

時には場面をはるのも悪くないさ、
いつ引け時か知っていればね。
だがお前はやり過ぎた、
引け時になっても気づかなかった。
いや、そうさ、そうなんだ、
お前は大物になりたかったんだ、
大きなことを言いたかったのさ。
大物で居なけりや気がすまなかったのさ。

お前の友達は皆お前に夢中になった、
昨夜お前は主役で居たかったんだ。
一緒に居るとすごく楽しいって、
皆の注目を一身に集めたかったんだ。
昨夜お前は大物で居たかったんだ。

オネステイ

訳詞：あらいあきら

あなたが求めているのが優しさなら
見つけるのは難しくない。
生きて行く上に必要な愛を得ることも
出来よう。
しかしこの世で正直さを求めると、
むしろ盲目になった方が良くらい、
見つけるのはいつも本当に難しい。

誠実とはまことに淋しい言葉だ、
誰もが余りにも不誠実だから、
誠実という言葉に耳にすることは少いが
しかしそれこそあなたから欲しいものなのだ。

私が何でも包みかくさず打開ければ、
同情する、と言ってくれる人は
どこにでも居るものだ。
しかしきれいな事な顔をして
きれいな事な嘘をつく人は要らない。
私が欲しいのは信じられる人だ。

誠実とはまことに淋しい言葉だ。
誰もが余りにも不誠実だから、
誠実という言葉に耳にすることは少いが
しかしそれこそあなたから欲しいものなのだ。

恋人を見つけることは出来よう。
友を得ることも出来よう、
安定を得ることも出来よう、
いずれ苦い終が来るまでは……
誰でも約束の言葉でもって
私を慰めることは出来る、
そうさ、それは判っている。

私が深く思いにひたっている時、
余り心配しないで欲しい、
そういう時私は何も求めはしない。
しかし真摯さを求めた時、
私はどこに求めたら良いというのだ、
だってそれはあなたから欲しいのだから。

誠実とはまことに淋しい言葉だ、
誰もが余りにも不誠実だから、
誠実という言葉に耳にすることは少いが、
しかしそれこそあなたから欲しいものなのだ。

ガラスのニューヨーク

訳詞：山本安見

金曜の夜 きみのパーティをメチャメチャにした
土曜になって 僕は謝った
日曜が来て きみはまた僕を追いだした
僕は楽しんでただけさ
誰も傷つけはしなかった
みんな 一風変わった週末を楽しんだじゃないか

戦間地帯ですっかり迷っちゃった
たった一人でベッドフォード・スタイを歩いた
雨の中 オートバイで突っ走ったぜ
きみは乗っちゃいけないとってただけど
ちゃんと無事に辿り着いたさ
“あなたが気狂いだって証拠よ”ときみ



きみのいう通りかも知れない
僕は狂ってるのかも知れない
だけど きみは狂人を探してたんだろ？
明かりを消せよ
僕を救おうなんてしないでくれ
きみのほうが間違ってるのかも知れない
でも もしかすると きみが正しいのかも……

覚えているかい？ 電気椅子に独り
坐っていたきみと出会った時のこと
僕の下品なジョークにきみはついに笑ったね
一人の男のために きみはとても孤独だった
そこで 僕はいった “僕はどう？”
気晴らしに 僕みたいな気狂いと
つきあってみないか？

思えば きみはずっと長い間
満足させてくれる男を探していたんだね
きみのいうように 僕は狂ってるかも知れない
もし 僕が狂ってるとしたら
それはすべてきみのせいなんだよ
だって きみはそんな僕を求めているんだもの

きみのいう通りかも知れない
僕は狂ってるのかも知れない
だけど きみは狂人を探してたんだろ？
いい争っても もう手遅れさ
僕を変えるには もう遅すぎる
きみのほうが間違ってるのかも知れない
でも もしかすると きみが正しいのかも……

きみのいう通りかも知れない
僕は狂ってるのかも知れない
だけど きみは狂人を探してたんだろ？
明かりを消せよ
僕を救おうなんてしないでくれ
きみのほうが間違ってるのかも知れない
でも もしかすると きみが正しいのかも……
きみは間違ってるかも知れないし
もしかすると 正しいのかも知れない

ロックン・ロールが最高さ

訳詞：山本安見

僕のこの格好 どこがおかしいかい？
“ネクタイの幅が広すぎるとは思わない？”
昔風のタブ・カラーのシャツでも買おうか？
“まるでジャイブの時代に逆戻りね
今まで一体どこに潜んでいたの ハニー？
金ならたんまりあるでしょうに
なんでそんなボロを着てるの？”
みんながニュー・サウンドの噂で持ち盛り
だけど 僕にはやロックン・ロールが最高さ

僕の乗ってる車 どこがおかしいかい？
“流行遅れだってこと気がつかないの？”
真っ白のぶつとタイヤでも履こうか？
“そんな車でどこまで走るつもり？”
最近じゃ センチメンタルは流行らないわ
ブルーのコンチネンタルにでも乗るつもり？”
ホット・ファンク、クール・パンク

それとも オールド・ジャンクか
僕にはやっぱりロックン・ロールが最高さ

新聞で何が騒がれようと思ったことじゃない
いつも同じことの繰り返しじゃないか
期待のニュー・バンド現れる？
だけど 新聞が10代の若者向けに
書きあげた記事だけじゃ
どんなサウンドが分かったものじゃない

ピンク色のサイドワインダーや
鮮やかなオレンジ色のパンツはどうだい？
“あなたにもし その気があるのなら
ポー・ブランネルにだってなれるのよ
新品のスピーカーなんか金を使わないで
安物のスニーカーのほうが走行距離は長いわ”
ネクスト・フェーズ、ニュー・ウエイヴ
それとも ダンス・クレイズ
僕にはやっぱりロックン・ロールが最高さ

僕の眼前の群衆は一体どうしたんだろ？
“みんな だんだん遠ざかっていくのよ”
模範生みたいに振舞えばいいのかな？
“それはあまりにも考えすぎってもよ
ニュー・ファッションのこと知ってる？
ルックスがよくて お金持ならいいのよ”

ネクスト・フェーズ、ニュー・ウエイヴ
それとも ダンス・クレイズ？
僕にはやっぱりロックン・ロールが最高さ

みんながニュー・サウンドの噂で持ち盛り
だけど 僕にはやロックン・ロールが最高さ

プレッシャー

訳詞：山本安見

歩調正しく歩くことを学ばなきゃならない
プレッシャー
きみも他のみんなと同じなのだ
プレッシャー
今までは全速力で遠くまで逃げていたきみだけど
辿り着いた場所で
きみが感じるものといえば
顔面に突きつけられた装填した銃なのさ
そこで きみはうまく処理しなければならない
プレッシャーを
きみは僕を偏執狂と呼んでいたけ
プレッシャー
だけど きみだって避けるわけにはいかないんだ
プレッシャーを
きみはタップ・ダンスを十字軍に変えてしまった
そして 今は誠実さと
ピーター・パン的なアドバイスを誇りにしている
頬に傷ひとつ持たないきみは
うまく取り扱えっこないのさ
プレッシャーを
大人になっても どこにも行けやしない
心理学1 心理学2

きみは何を知ってるんだ？
きみの人生はすべて チャンネル13
セサミ・ストリートさ
それにどんな意味があるんだ？
プレッシャー
プレッシャー
助けを求めちゃいけない きみは独りぼっちなのだ
プレッシャー
きみは自分自身で答えを見つけなきゃならない
プレッシャー
きみにも何か普遍的な理論的根拠があるだろう？
だが 今のきみには9番めの価値もない
二人の男が入れば 3人の男が出る
見るべき所は心の中だけさ
そして 僕らはみんな応答するのだ
プレッシャーに
プレッシャーに
きみの人生はタイム・マガジンなのさ
僕も読んでるよ
それはどういう意味だ
プレッシャー
きみにも何か普遍的な理論的根拠があるだろう？
プレッシャー プレッシャー
1、2、3、4
プレッシャー



スタッテン・アイランド行のフェリーからのマンハッタン

アレタウン

訳詞：山本安見

僕らはここアレタウンに住んでいる
町の工場は次々に閉鎖されていく
ベツレヘムでは 誰もが暇をもてあまし
申し込み書に記入しては
列に加わって並んでいる
僕らの親父たちは第2次世界大戦で戦い
ジャージー・ショアで週末を過ごした
そして USO*でお袋たちと知りあい
ダンスを申し込んだ
ゆっくりと優雅に踊ったものさ
僕らはここアレタウンに住んでいる
安らぎを得ることはできないし
この町で暮らすのはますます困難になっていく
僕らはアレタウンで待っている
ペンシルヴァニアはついに見つからなかった
教師たちはいつもいっていた
まじめに働けば
立派にふるまえば 必ず報われると
壁に飾ってある卒業証書も
結局 僕らには何の役にも立たなかった
彼らは何が本当なのかさえ教えてくれなかった
鉄とコークス
そして クロム鋼

僕らはアレタウンで待っている
だが 彼らは地下の石炭を残らず掘りだした
組合の連中も 次々と逃げだした
だが 子供たちはまだ大丈夫だ
少なくとも親と同じ程度のものは持っている
だが、あそこに行くまでに何かが起こった
彼らは僕らの顔面にアメリカ国旗を投げつけたのだ
僕らはここアレタウンに住んでいる
まじめな人間を押えるのは難しい
今朝 僕は起きないぞ
この町で暮らすのはますます困難になっていく
でも 僕らはここアレタウンに住んでいる

*訳註：USOとはUnited Service Organizationの略。

グッドナイト・サイゴン～英雄達の鎮魂歌

訳詞：山本安見

パリス島で 僕らは親友になった
そして 囚容所から同じ囚人として別れた
僕らは そう ナイフのように研ぎ澄まされていた
命を投げ捨てるには 僕らはあまりにも若かった
僕らは野性の馬のようにけいれんしながら入ってきた
そして 数字をつけられた死骸となって帰ってきた
光の速度で旅することを教えられ
僕らの腕は重かったが 腹は堅かった
僕らに故郷はなく
柔らかな石けんもなかった
送られてくるものは「プレイボーイ」
そして 与えられるものはボブ・ホープ
僕らは深く穴を掘り 目にするものはすぐ撃った
そして イエス・キリストに心を込めて祈った
景色を撮るカメラもなく
僕らはハッシュのパイプを回し ドアーズのテープを聞いた
夜になると あたりは真っ暗闇だった
僕らはまるで兄弟同志のように
おたがいにすがりあった
そして 母親たちに手紙を書く約束した
僕らはみんな一緒に倒れるのだ
僕らはみんな一緒にやられるのだ
僕らはみんな一緒に死んでいくのだ

チャーリーを覚えているか？
ベイカーを覚えているか？
彼らは少年の面影を残したまま墓地に眠っている
誰か間違っていたのか？
誰か止しかったのか？
闘いの真っ只中ではそんなことは関係ないのだ
任務は僕らの手中にあった
しかし 夜は彼らの支配下にあった
そして 夜は6週間もの長さに思われた
パリス島
僕らは海岸線を保守した
彼らは高地を保守した
そして 彼らはナイフのように研ぎ澄まされていた
彼らは僕らのモーターのうる音聞いた
彼らはヘリコプターの回転翼の音を数えた
そして 僕らの到着を待っていた
僕らはみんな一緒に倒れるのだ
僕らはみんな一緒にやられるのだ
僕らはみんな一緒に死んでいくのだ



セントラルパークにて

あの娘にアタック

訳詞：山本安見

いいかい 聞けよ
きみがいいものを見過ごしているのを
黙って見ていられないのさ
僕が犯した過ちを
誰かが繰り返すのは見るに忍びないんだ
彼女は気づくべきなのさ
彼女はいつだって きみの傍にいるんだと…
だけど 気だてのいい娘は
いちいち男に指図はしないものさ

いいかい 聞けよ
きみは自分で何もかもコントロールしていると
そう思っているんだらう
誰かの心に住む方法を
いちいち忠告してほしくないんだらう
きみはもう立派な大人だ
彼女を手放すつもりはないんだらう
きみはもう立派な大人だ
彼女を手放すつもりはないんだらう
だけど 彼女にこれだけは言っておいたほうがいい

彼女に話してやれよ
きみが感じていることすべてを……
きみが本物の男だということを示すんだ
彼女に話してやれよ

きみのクレージーな夢のすべてを……
きみがどれほど彼女を必要としているか
彼女がどれほど大切な存在か 話してやるんだ

いいかい 聞けよ
自分自身を自動的に保証することはできないのさ
いつも意志の伝達を供給しなければならない
誰かを愛したら きみはいつも不安定になる
確信を持つには たったひとつの方法しかない

彼女に話してやれよ
きみがどれだけ想っているか……
彼女がきみと一緒にいられない時は
傍にいたいという気持ちを伝えるんだ
彼女に話してやれよ
別れる時にはいつも
彼女への関心を示してやるんだ
何か信じられるものを残してやるんだ

時々 彼女は心配になってしまう
きみが長いこと話しかけてやらなかったからさ
何も やましいことはしてなくても
彼女が去った後にホッとすることはあるかい？

いいかい 聞けよ
これは間違いをしてかした男からの
心のこもった忠告なんだ
きみが口にしたほんの一言二言が

ちょっとした誤解を招くものになるのさ
彼女は疑いなどこれっぽっちも抱いていない
きみを心から信頼しているんだ
だけど ああいうタイプの娘は
きみに何ひとつ不満を言わないのさ

彼女に話してやれよ
きみが今どんな気持ちでいるか
正直に話してやれよ
女の子は長いこと待つのを嫌がるものさ
彼女に話してやれよ
今すぐ話せば 悪い結果にはならないぜ
さあ 彼女に話してやるんだ
手遅れになる前に
彼女に話してやるんだ
女の子ってのは待つのが苦手なのさ
だから 今すぐ 話してやれよ
さあ 話してやれよ きみの気持ちを
正直な気持ちを聞かせてやるんだ……

アップタウン・ガール

訳詞：山本安見

アップタウン・ガール
彼女は山の手の世界に住んでいる
裏通りに住む男にはまるで縁がない
彼女の母親はその理由さえ話したことがない
だから 僕は試してみたいのさ
アップタウン・ガール
白いパンの世界に住んでいる
熱い血の通う一人の人間として
彼女は今 ダウンタウンの男を求めている
それがこの僕なのさ

彼女が自分の求めているものに気づいた時
朝 目覚めて心を決める時
彼女は悟るだらう 僕はそんなにタフじゃないと…
なぜって 僕は恋をしているのさ
アップタウン・ガール
山の手の世界に住んでる彼女を見た
彼女は高級品のおもちゃには飽き飽きしてる
山の手ボーイから贈られるプレゼントにもね
彼女にだって選ぶ権利はあるのさ

アップタウン・ガール
僕は彼女に真珠を買ってあげることはできない
だけど いつか運が向いてきたら
僕がどんな男だったか彼女にも分かるだらう

その時 僕は勝利を手に入れるのさ
歩く時 彼女はとてもイカしてる
話す時 彼女は僕のものだと言ってくれる
僕がそんなにタフじゃないって気づくだらう
なぜって 僕は恋をしているのさ

アップタウン・ガール
彼女は僕のアップタウン・ガール
知らないのかい？ 僕は恋をしているのさ
僕のアップタウン・ガール
知らないのかい？ 僕は恋をしているのさ……



スタッテン・アイランド行のフェリーに集う人々

ロングスト・タイム

訳詞：山本安見

ああ ずっと長いあいだ
ああ ずっと長いこと……

もし 今夜 きみがさよならを言っても
僕はやっぱり曲を書きつづけるだろう
他に何ができる？
きみは僕に靈感を与えてくれる
ずっと長いあいだ僕にはなかったことさ

自分の純真さがなくなったと感じたこともあった
でも 今は幸福が持続すると思っている
きみがその腕で抱きしめてくれた時
僕はきみのものになった
ずっと長いあいだ味わえなかったことさ

ああ ずっと長いあいだ
ああ ずっと長いこと……

廊下から聞こえてくるのは僕の声さ
何よりも素晴らしい奇跡は
僕がきみを求めている
きみも僕を求めているってこと
ずっと長いあいだ僕にはなかったことさ

この恋は長つづきしないかも知れない
でも そんな不安はきみが吹き飛ばしてくれる
今までずっと待ち望んでいた僕だけ
ついにここまでできてしまった
僕が思っていたより ずっと遠くまで……

これから先僕らがどうなるか誰も知らない
きみがいなくなって後悔するかも知れない
でも このチャンスに賭けてみたい
ロマンスがこれほど素敵だなんて忘れていた
ずっと長いあいだ僕にはなかったことだもの

最初の頃は よく考えてみたものさ
自分の心を大切にしろとい聞かせもした
でも 今 僕にとって女はきみ一人
今のところ きみは最高に素晴らしい女さ
僕が理想に描いていたよりもずっとね
結果がどうなるかと かまいはしない
ささいなことでもバカをやってきた僕さ
きみがほしくてたまらないんだ
きみにも知っておいてもらいたい
いつまでも ずっと長いあいだ
きみを抱きしめていたいのさ

ああ ずっと長いあいだ
ああ ずっと長いこと……
ああ ずっと長いあいだ
ああ ずっと長いこと……

オンリー・ヒューマン

訳詞：鈴木道子

つらい時期だね
気分もすぐれない
となり近所に
悪い噂もたっている
いいじゃないか
時にはそういうこともあるんだから、
気にするなよ
人間なんだもの
過ちだってある
きみも人並さ

人生には何度かチャンスがめぐってくるんだよ
つまづいた愚か者みたいに思える時は
ぼくの言うことを信じろよ
学校で学よりも
自分が出会う災難から
多くを学ぶものなんだ
だから セカンド・チャンスがあるのを
忘れるな
いずれは
第二の風は吹いてくるんだよ

痛みをたえて生きるのは
たやすいことじゃない
何度でも 石の壁にぶちあたると
いいじゃないか
心がはりかけても 大丈夫だ

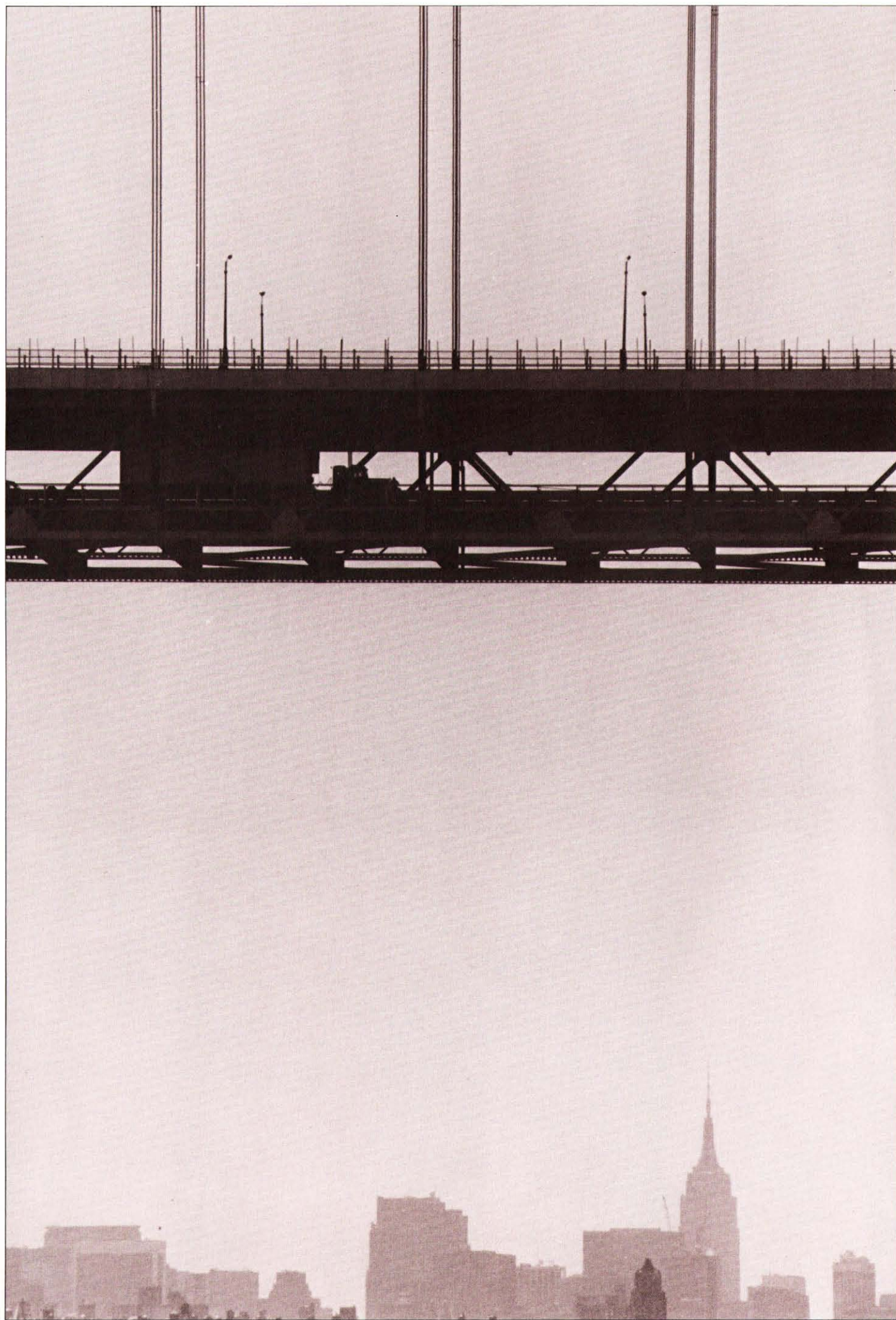
きみも人並さ
心の痛みとも うまくつき合うことだね
人間にはよくあることなんだ。
タイトル・マッチのボクサーみたいに
たった一人でリングへ歩み出る
ミスをしたのは きみ一人じゃない
でも“オレだ！”っていえるのは 一人だけだ
セカンド・チャンスがあるのを忘れるな
そよ風が吹いてくるまで ひっそりと待て
近ごろきみは 一人淋しくくらししてるね
まったくついてないと思ってる
時にはこのまま身を横たえて死にたいとも思う
せっぱつまった気持ちかも知れないね
でも ちょっと待て
あの第二の風はやってくるんだから
人にはよくあることなんだ

誰かのお説教なんか
ききたくないんだろ
でも ぼくにもそんな経験がなかったら
言うつもりはない
大丈夫だ
いいじゃないか
それも経験なんだから
人にはよくあることさ
過ちはおかすものなんだ
きみも人並さ
でも 長い孤独の日々から ぼくは立ち直った

友だちなんか一人もいないと思ってた
ちょっとした誠実さがほしかったんだよ
だから息をこらして もう一度しっかり世界
をみつめてみたんだ
セカンド・チャンスはあるんだよ
いずれ元気にはずみがついてくる
もう一度ね
セカンド・チャンスをおぼえるな
いずれ はずみがついてくる
セカンド・ウィンドをおぼえるな
人間なんだもの
第二の風はきつと吹いてくる



ニュージャージーからマンハッタンをのぞむ



ナイト・イズ・スティル・ヤング

訳詞：鈴木道子

ぼくはむかし通り若く
熱くもえる心をもっている
しかし 物事のもう一面が
よくわかる年でもある
今まで懸命に働いてきた
これから先もずっとそうだろう
だが 今 ぼくは
この瞬間を生きたい
今夜にかけよう

夜がまだみずみずしい間に
きみと愛を交わしつづけたい
夜がまだみずみずしい間に

ぼくは結婚して
落ち着きたい
いつか子供もできるだろう
今が潮時なのかわかるよ
スーツケースを投げ出した時にそう思った
きみが電話に向ってお休みなさいを言う
離れ離れの生活は もうおしまいだ
ねえ きみぼくはこの生活が全てじゃないと
決心したんだ

あ、
夜がまだみずみずしい間に
夜がまだみずみずしい間に
ぼくは世界を真新しくしてみせるぞ
夜はまだみずみずしい

ぼくにはロックン・ロールだけさ
そういつてきた
何か足りなかったけれど
なぜだろう なんて迷いもしなかった
でも 今わかったよ きみなんだ
もう一度 うまくやり直せる人は
ぼくは戦いに負けるかも知れないが
やり直す意志をきみが与えてくれるだろう

あ、
夜がまだみずみずしい間は
夜はまだみずみずしいのだ
ぼくはこれからいく度も
奮起して戦わねばならない
夜がまだみずみずしい間に
ぼくは世界を真新しくしてみせるぞ
夜はまだみずみずしい

DISCOGRAPHY of BILLY JOEL



コールド・スプリング・ハーバー〜ピアノの詩人〜

COLD SPRING HARBOR ■25AP-2735 25KP-1031(C) 35DP-108 (CD) 30AP-2548(MS)

1971年、光り輝やく才能に誰も気付かなかった…。『ピアノ・マン』よりさかのぼる事2年、ソロとしてのキャリアを歩み始める。デリカシーに溢れたピリーの処女作であり、ピアノ弾き語りの曲ばかりを集めており、見事なピアノ・ソロから速弾きまで、ピアノ・マンとしての魅力タップリである。12年振りに権利がクリアになり、隊に陽の目を見ることになったアルバムである。

シーズ・ゴット・ア・ウェイ/ユー・キャン・メイク・ミー・フリー/エヴリバディ・ラヴス・ユー・ノウ/ホワイ・ジュディ・ホワイ/フォーリング・オブ・ザ・レイン
SHE'S GOT A WAY YOU CAN MAKE ME FREE/EVERYBODY LOVES YOU NOW/WHY, JUDY, WHY/FALLING OF THE RAIN
ターン・アラウンド/ユール・ルック・ソー・グッド・トゥ・ミー/トゥ・モロー・イズ・トゥ・ディ/ノクターン/ゴット・トゥ・ビギン・アゲイン
TURN AROUND/YOU LOOK SO GOOD TO ME/TOMORROW IS TODAY/NOCTURNE/GOT TO BEGIN AGAIN



ピアノ・マン PIANO MAN 25AP-952 25KP-421(C) 35DP-109(CD)

1973年CBSデビュー。ファースト・シングル「ピアノ・マン」の大ヒットにより、このすぐれた才能、素晴らしい魅力を持つアーティストの存在を全米中に知らしめた。この大ヒットによりCash-Box誌の1974年度最優秀新人男性歌手賞を授けられている。

流れ者の祈り/ピアノ・マン/悪くはないさ/僕の故郷/さすらいのピリー・ザ・キッド
TRAVELIN' PRAYER/PIANO MAN/AIN'T NO CRIME/YOU'RE MY HOME/THE BALLAD OF BILLY THE KID
陽気な放浪者/ネバダ・コネクション/愛する言葉に託して/小雨降るバリー/キャプテン・ジャック
WORSE COMES TO WORST/STOP IN NEVADA/IF I ONLY HAD THE WORDS (TO TELL YOU)/SOMEWHERE ALONG THE LINE/CAPTAIN JACK



ストリートライフ・セレナーデ STREETLIFE SERENADE 25AP-1078 25KP-423(C) 35DP-110(CD)

1974年、ノース・ハリウッドのデヴォンシャー・サウンドでレコーディングされており、自らひとつの時代に幕を下ろし、新たな幕を開ける起爆剤となった作品集と言える。都会を背景にした人生のエピソードを綴りながら、人生の影の部分を探り下げていく魅力に溢れている。

街の吟遊詩人は…/ロスアンジェルス紀行/場末じみた場面/ルート・ビアー・ラグ/ロバータ〜街の恋物語
STREETLIFE SERENADE/LOS ANGELENOS/THE GREAT SUBURBAN SHOWDOWN/ROOT BEER RAG/ROBERTA
エンターテイナー/ビッグ・タイム・スペンダー/週末の歌/スーベニア/メキシカン・コネクション
THE ENTERTAINER/LAST OF THE BIG TIME SPENDERS/WEEKEND SONGS/SOUVENIR/THE MEXICAN CONNECTION



ニューヨーク物語 TURNSTILES 25AP-953 25KP-422(C) 35DP-111(CD)

1976年、初めてニューヨークで録音される。アメリカの都会、人生、人物、社会現象をとりあげながらひとつの人間像を描く。より一段と、ニューヨークへの愛情、愛着、郷愁を感じさせる。『ニューヨークの想い』『さよならハリウッド』の名曲を収録。ピリー自身、最も気に入っている作品であり、ファンの中で名盤の誉れも高いものである。

さよならハリウッド/夏、ハイランドフォールズにて/踊りたい/ニューヨークの想い
SAY GOODBYE TO HOLLYWOOD/CAPTAIN JACK/YOU'RE MY HOME/THE BALLAD OF BILLY THE KID/I'VE LOVED THESE DAYS
ジェイムズ/プレリュード〜怒れる若者/楽しかった日々/マイアミ2017
JAMES/PRELUDE/ANGRY YOUNG MAN/I'VE LOVED THESE DAYS/MIAMI 2017



ストレンジャー THE STRANGER 25AP-843 25KP-268(C) 35DP-2(CD) 30AP-1874(MS)

1977年、プロデューサーにフィル・ラモーンを迎え、ニューヨーク52番街、A&Rスタジオで録音。このアルバムの世界的大ヒットにより、一躍スーパー・スターの仲間入りをする。この頃からピリー・ジョエル・バンドも固まり、音楽のレンジも一層広まり、第21回グラミー賞最優秀シングル受賞曲の『素顔のままで』そして『ストレンジャー』の大ヒット・シングルを放つ。

ムーヴィン'アウト/ストレンジャー/素顔のままで/イタリアン・レストランで
MOVIN' OUT (ANTHONY'S SONG)/THE STRANGER/JUST THE WAY YOU ARE/SCENES FROM AN ITALIAN RESTAURANT
ウィーン/若死にするのは善人だけ/シーズ・オールウェイズ・ア・ウーマン/最初が肝心/エブリバディ・ハズ・ア・ドリーム
VIENNA/ONLY THE GOOD DIE YOUNG/SHE'S ALWAYS A WOMAN/GET IT RIGHT THE FIRST TIME/EVERYBODY HAS A DREAM



ニューヨーク52番街 52ND STREET 25AP-1152 25KP-359(C) 35DP-1(CD) 30AP-1955(MS)

1978年、前作の大成功で乗りに乗ったポップ・センスはとどまる事知らず、大ヒットを連発。フィル・ラモーンとの絶妙のコンビネーションは『オネステイ』『マイ・ライフ』『ビッグ・ショット』等を生み、ニューヨークの熱い鼓動を伝えてくれる。第22回グラミー賞、最優秀アルバム受賞及び最優秀男性歌手受賞。

ビッグ・ショット/オネステイ/マイ・ライフ/ザンジバル
BIG SHOT/HONESTY/MY LIFE/ZANZIBAR
恋の切れ味(ステイレット)/ロザリンドの瞳/自由への半マイル/夜のとぼり/ニューヨーク52番街
STILETTO/ROSALINDA'S EYES/HALF A MILE AWAY/UNTIL THE NIGHT/52ND STREET



グラス・ハウス GLASS HOUSES 25AP-1800 25KP-540(C) 35DP-18(CD)

1980年、ピリーの衝撃的ロックン・ロールは爆発した。『いつまで一つの物にこだわっているんだい、時は動いているんだぜ』『ガラスのニューヨーク』『ドント・アスク・ミー・ホワイ』そして全米ナンバー・ワン・ヒットの『ロックン・ロールが最高さ』等の大ヒット曲を収録。アルバム・チャートももちろんNo.1。そしてスーパーの証明、3たびグラミー受賞。最優秀男性ロック歌手の栄光を受賞。

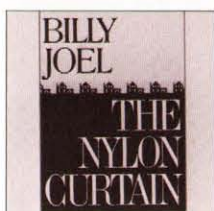
ガラスのニューヨーク/真夜中のラブコール/ドント・アスク・ミー・ホワイ/ロックン・ロールが最高さ/レイナ
YOU MAY BE RIGHT/SOMETIMES A FANTASY/DON'T ASK ME WHY/IT'S STILL ROCK AND ROLL TO ME/ALL FOR LEYNA
孤独のマンハッタン/チャンスに賭けろ/愛の面影(セテ・ドフ)/ボーダーライン/ロング・ナイト
I DON'T WANT TO BE ALONE SLEEPING WITH THE TELEVISION ON/C'EST AIT TOI (YOU WERE THE ONE)/CLOSE TO THE BORDERLINE/THROUGH THE LONG NIGHT



ソングズ・イン・ジ・アティック SONGS IN THE ATTIC 20AP-2130 20KP-733(C) 35DP-19(CD) 30AP-2261(MS)

1981年、ピリーが最も愛し、そっと胸にしまひこんでいた珠玉の名曲の数々が、すさまじいステージのエネルギーの中で甦る。80年6〜7月全米ツアーでのライブ・アルバムであり、初期4作から選曲されている。特別寄稿としてピリー・ジョエル自身のライナー・ノーツがついている。[特別価格¥2,000。]

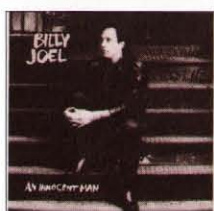
マイアミ2017/夏、ハイランドフォールズにて/街の吟遊詩人は…/ロスアンジェルス紀行/シーズ・ガット・ア・ウェイ/エブリバディ・ラヴス・ユー・ノウ
MIAMI 2017 (I SEEN THE LIGHT GO OUT ON BROADWAY) SUMMER, HIGHLAND FALLS STREETLIFE SERENADE LOS ANGELENOS SHE'S GOT A WAY EV'RYBODY LOVES YOU NOW
さよならハリウッド/キャプテン・ジャック/僕の故郷(あるさど)/さすらいのピリー・ザ・キッド/楽しかった日々
SHE'S RIGHT ON TIME/A ROOM OF OUR OWN/SURPRISES/SCANDINAVIAN SKIES/WHERE'S THE ORCHESTRA?



ナイロン・カーテン THE NYLON CURTAIN 25AP-2400 25KP-846(C) 35DP-34(CD) 30AP-2401(MS)

1982年、やっただけ感動/時代のヒーローが時代の傑作を作った。2年半振りのスタジオ録音。現代アメリカを代表するピリーの衝撃の一擲は世界を揺るがし、悩めるアメリカが抱える諸問題にスポットをあてた。ハード&シリアスなサウンドはピリーの新しい面を聴かせてくれ、新しいファン層を広げた。[特別附録]ピリー自身のライナー・ノーツ&16pピリー・ジョエル読本。

アレントウン/ローラ/プレッシャー/グッドナイト・サイゴン〜英雄達の鎮魂歌
ALLENTOWN/LAURA/PRESSURE/GOODNIGHT SAIGON
シーズ・ライト・オン・タイム/ふたりだけのルーム/サプライズ/スカンジナビアン・スカイ/オーケストラは何処へ?
SHE'S RIGHT ON TIME /A ROOM OF OUR OWN/SURPRISES/SCANDINAVIAN SKIES/WHERE'S THE ORCHESTRA?



イノセント・マン AN INNOCENT MAN 25AP-2660 25KP-980(C) 35DP-77(CD) 30AP-2539(MS)

1983年、新しいニューヨークの物語が始まった。アメリカン・ポップスの素晴らしいフル・ナップした、ジューク・ボックス的なアルバムであり、ピリー自身のルーツを教えてくれる。全米ナンバー・ワンに輝やく『あの娘にアタック』『アップタウン・ガール』そして世紀の名曲『This Night』等を収録しており、アルバムの全ての曲にキラリと光るポップ・エッセンスがちりばめられている。全世界で大ベストセラー中であり、彼の数あるプラチナ・アルバムの中でも群を抜いて、驚異的なセールスを記録しそうである。

イージー・マネー/イノセント・マン/ロンゲスト・タイム/ディス・ナイト〜今夜はフォーエバー/あの娘にアタック
EASY MONEY/AN INNOCENT MAN/THE LONGEST TIME/THIS NIGHT/TELL HER ABOUT IT
アップタウン・ガール/ケアレズ・トーク/君はクリスティ/夜空のモーメント/キーピン・ザ・フェイス
UPTOWN GIRL/CARELESS TALK/CHRISTIE LEE/LEAVE A TENDER MOMENT ALONE/KEEPING THE FAITH



RCAの屋上から